

平成23年度 指定管理者評価結果

施設名	岐阜県立みどり荘
指定管理者	社会福祉法人 岐阜県福祉事業団
共同体である 場合の構成員	
施設所管課	健康福祉部 障害福祉課
評価委員会 による評価	<p>管理基準の充足状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理物件の保守・管理はほぼ適正に行われている。 ・家族を入れての個別支援計画書の作成を行っており、支援の方向性を明確化していることは評価できる。 ・作業のグループ、種別の増加や、余暇時間での音楽療法、茶華道等の専門家の招へいなど、利用者のサービス向上に努めていることは評価できる。 ・施設としての様々な取り組みを行う際には、施設側の支援者の思いだけでなく、利用者の意見を尊重し、相談し合っていくという方向性を確立していくことが望ましい。 ・空調機器の更新やトイレ改修など、利用者の心身の状況に応じてアメニティーに配慮した環境整備を行ったことは評価できる。今後も緊急性の高い箇所から着手していくことを期待する。 ・研修等を通じ、職員の資質向上に努めている。 ・正規職員が前年度より減少しており、利用者のサービス低下につながっていないか、職員配置上、正規職員と雇員の比率が1：2となっているのは適正であるかについて検証し、検討していく必要がある。 <p>設置目的の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は充足している。 ・地域のニーズに応え、日中一時支援の利用者の大幅な増加に対応するなど、地域で生活している障がい者や家族が安心できる生活の場の提供に取り組んでいる。 ・利用者の重度化・高齢化が職員の積極性、意欲を削いでいる傾向がないか、施設の設置目的と照らして検証する必要がある。 ・給食の配食事業について、配達には利用者が関わっていないという状況も踏まえて改めて再評価を行い、継続かどうかの判断を行っていく必要がある。 ・利用者の高齢化が進む中で、そうした高齢化に対応した施設とするのか、地域移行を目指した施設とするのかといった施設の特徴を明確にする必要がある。 ・地域への事業に比べ、利用者の処遇についての具体的な目標が不明確なため、職員はどこへ向かって進んでよいのかわからないのではないかと。 <p>公共性の確保の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査、CS調査により、利用者の声の把握に努めている。 ・緊急時の対策について、地域との協力体制を構築するなど、マニュアル作成を行っている。 ・利用者の重度化・高齢化に伴うリスクの管理と環境整備の重要性について、職員が常に意識化できるよう、倫理行動指針の読み合わせに加えて、朝礼や各会議等で対策を講じられたい。 ・高齢化・重度化の事故予防対策として、骨密度測定や食事内容の個人別の対応を考慮する必要がある。 <p>経営状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収支状況報告書は健全と認められる。

	<ul style="list-style-type: none">・人件費比率（55%）の水準、経理区分間繰入金支出の額は適正なものであるのか検証する必要がある。・施設事業収入等が前年度から減額となり、支出でも事務費、事業費、経理区分間繰入金支出等が減額となっているが、利用者のサービスを確保するため、事務費等は減額とせず、経理区分間繰入金支出をもっと減額としてもよいのではないか。 <p><u>その他派生的効果等</u></p> <ul style="list-style-type: none">・ボランティアの受け入れ人数が増えており、中でも地元中学生のボランティアが増えている。若い中学生の福祉や障がい者に対するこころ育ての一翼を施設が担っていくことは非常に重要なことであり、大いに評価できる。今後も継続して受け入れられたい。・ボランティアをはじめ、地域への貢献、地域交流等によく取り組まれている。・地域と協力した避難生活班の組織化、災害時備蓄品3日分確保など、緊急時避難対策の充実が図られていることは評価できる。今後、岐阜市の福祉避難所として、利用者以外の避難者の受け入れについて、地域と支援会議が開催できるとよい。
県 の 評 価	<ul style="list-style-type: none">・協定書に定めるサービス水準を満たし、適切に管理されている。